

この子らと

令和8年8月号

命輝く子ども



未就園児親子教室 7/4日

わくわく鹿児島中央認定こども園



園長 川口公男

ヤマアラシのジレンマ

(哲学者のショーペンハウアーの寓話)

ある冬の日、ヤマアラシのカップルが寒さに震えていました。お互いの体を寄せ合って暖をとろうとしたところ、接近しすぎて、自分たちの針で相手の体を突き刺してしまいます。

しかし、離れすぎると今度は、寒さに耐えきれなくなり、またお互いに体を寄せ合い、お互いに針で体を突き刺してしまいます。



こうしたことを繰り返していると、このカップルは、お互いにそれほど傷つけあわないですみ、しかも、お互いに暖め合うような「**つかず離れず**」のちょうど良い「**人間距離**」(じんかんきょり)を見つけることができたという寓話です。



「ヤマアラシ」のジレンマとは、人間同士がお互いに仲良くなろうと心の距離を近づけるほど、お互いに傷つけあって、一定距離以上は近づけない心理を言います。

「折り合い」をつける

こども園生活を通して、子どもたちは、友達と出会い、その関わりを深めていきます。初めの頃は同じ場所で、同じような遊びを一緒に楽しんでいます。

やがて、自分のやりたいことを相手に伝えたり、相手の思いを受け止めたりして一緒に活動するようになります。

時には、お互いの自己主張がぶつかり合うことも出できます。



しかし、お友達と一緒に遊びたいという思いが強くなり、自分の気持ちを調整(コントロール)してお友達と「折り合い」をつけることができるようになります。(社会の一員としての心の成長)

このようなことを繰り返し経験していくことで、「ヤマアラシの人間距離(じんかんきょり)」を体得しながら社会の中の一員として成長していきます。

明日から年長ぞう組、お泊り保育

お泊り保育については、令和5年5月8日以前のコロナウィルスの感染対策として、縮小あるいは中止した園があります。

本園は、「子どもが、家族と離れて一夜を過ごし、友達や職員と共同生活をする。」お泊り保育を昨年度から再開しております。

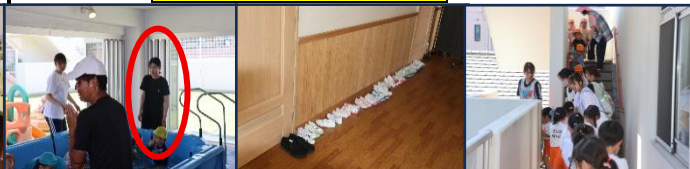


教育的価値は、次のとおりです。

- 親から離れて一晩を過ごすという体験は、幼児なりに、「やりとげることができた」という達成感や自信、自立心につながります。(自立心・自己肯定感)
- お買い物や食事の片付け、園内探検等をグループで活動しますので、役割分担や助け合いを経験します。(協調性・社会性)
- 学び舎で一夜を過ごす等普段とはちがう時間帯や環境で生活することで心の成長を促進します。(生活体験の広がり)

親と離れて不安や寂しさ等のストレスを抱える子どもへの配慮や体調不良等の子どもへの配慮等のきめ細かな体制を整えることで保護者のみなさまのご理解とご協力を得て、実施しています。

子どもの命を守る取組



見守り専念職員

上靴を履いて

避難訓練

令和7年度本園の収支報告

収入	198,342,890円
支出	182,521,126円
収支差額	15,821,764円

差額は、園の施設整備、教育・保育備品等活用いたします。法人評議員会等で承認済です。